かわかみ　ミネルバ通信

佐賀県教育センター
平成7年7月14日

《巻頭言》

学ぶことに終りはない

佐賀県教育センター　所長　村　山　　勝

ギリシアの哲学者エピクロスは「人はだれでも、まだ若いからといって、知恵の探究を延び延びにしてはならないし、また、年をとったからといって、知恵の探究に倦むことがあってはならない。」と述べている。まさに生涯学習の提唱である。

改訂された学習指導要領は、今日の社会の変化、すなわち、情報化、価値観の多様化、核家族化、高齢化そして生涯学習社会への移行という現実と、このような社会の変化のなかで育っている児童生徒の心身の発達の変化や21世紀を生きる力としての学力などへの対応として設定されたものである。

このような社会に対応する児童生徒を育てるためには、教育に従事する教職員にもまた、社会の変化に対応できる柔軟な思考力が求められている。

ところで、教師に期待される資質とはどのようなものであろうか。ある県の教育センターが調査したところによると、上位にあげられた事項は次のようになっている。

① 子どもに目を向け、愛情を注ぐ。
② 児童生徒への教育効果を高めるための理解と指導が適切である。
③ 何事にも誠意をもって当たる。
④ 各教科、領域に精通する。
⑤ 児童生徒を客観的視点に立って理解する。

教師の備えるべき資質や力量についての研究は、世界各国で盛んに行われており、OECD（経済協力開発機構）の教育委員会で検討されたこれからの教師に求められる力量とは次のようなものである。

① 子どもの多様な適性、能力に対応するためのカリキュラム開発
② 上記①のための多様な指導方法・評価の開発
③ 心身に障害のある子どもの指導の在り方
④ 生徒指導・教育相談の在り方
⑤ 情報化・情報機器への対応
⑥ 異文化（民族，宗教，言語，価値観等）集団の指導の在り方
⑦ 教師の人柄，パーソナリティ，人間性

これ等は21世紀に向けての期待される教師の資質であるが、社会の変化に伴い、期待される教師の資質も変化していくことを示している。

「学ぶことに終りはない」という言葉を心に留めて、日々努力していきたいものである。

《 評価シリーズ 》（中学校社会科）

新しい学力観に立つ指導と評価

所員 塩 谷 北 海

1　知識偏重の中学校社会科の改革

「ソ連の解体」や「1ドル＝80円時代」など急激に変化する社会において、社会科は内容面においても大きな変革を迫られている。単に覚えた知識の多さを重視してきた従来の社会科の学力では、変化の激しい社会において生きて働く学力とはなりにくい。そこで、21世紀を生きていく生徒に社会科で身につけさせる学力として、変化の激しい社会に主体的に対応するための自ら学ぶ意欲・態度の育成や社会的思考力・判断力などが重要となってくる。

2　指導のための評価へ

評価は、自分が行った授業などの指導の在り方について「あの生徒は封建制度について理解できただろうか」「あの場面で生徒の考えは深まっただろうか」など教師が自分の授業を振り返り、次の指導に生かしていくための資料を集めるためのものである。ところが、従来の評価は通知表などの「評定」を出すために行われていた面があった。

3　観点別評価に基づく評価

実際に評価を行う場合、評価の観点を持ったうえで評価を行う必要がある。もし、評価の観点を持っていなければ、生徒の学習状況などは全体的に、ただ漠然ととらえるだけで指導も不十分なままに終わってしまう恐れがある。中学校社会科は「関心・意欲・態度」「社会的思考・判断」「資料活用の技能・表現」「知識・理解」の四つの観点で分析的に生徒の学習状況をとらえる。具体的には、単元の指導・評価計画を作成し、それに基づいて指導案を作成する。その際、指導案にも評価規準や方法を設定し、評価を行う。（資料1、資料2参照）

（資料1）単元「中国・四国地方」の指導・評価計画　（）は評価方法

単元	観点／学習内容	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的思考・判断	資料活用の技能・表現	社会的事象についての知識・理解
中国・四国地方	中国・四国地方の自然と人々	・地図の読み取りなどの作業的学習に意欲をもって取り組もうとする。（ワークシート）		・作業的学習で地形や都市などをワークシートにまとめる。（ワークシート）	・中国・四国地方の主な地形、自然条件や県名などを理解する。（発言・ペーパーテスト）
	瀬戸内工業地域水島コンビナート			・統計資料,地図を活用し,瀬戸内工業地域の特色について読み取り、さらに円高やNIESの影響についても読み取る。	・瀬戸内工業地域の現状と立地条件について理解する。（ペーパーテスト）
	瀬戸内のみかんづくり	・みかん栽培の現状や課題について調べようとする。（観察・発言・ノート）	・みかん栽培について自然的条件や社会的条件から多面的に考える。（発言・ノート）		
	高知平野の野菜づくり		・促成栽培について自然的条件や社会的条件から考える。（発言・ノート）		・促成栽培とその現状について理解する。（ペーパーテスト）
	中国山地や日本海側の地域おこし		・過疎の様子やその対策について考えることができる。（発言・ワークシート）		

（資料2）評価規準・評価方法を入れた学習指導案

学習内容と学習活動	評価の視点（方法）
1　大和町と匹見町の人口の増減と人口ピラミッドのグラフから気づいたことを発表する。 ・大和町は増加している。 ・匹見町はずっと減っている。	※注意 (関)…関心・意欲・態度 (思)…社会的思考・判断 (技)…資料活用の技能・表現
2　どうして匹見町の人口が減少しているのかを予想し、発表する。 ・働き場所がないから ・不便だから	
3　人口が減ることで困ることについて考え話し合う。 ・商売が成り立たなくなり店が少なくなる。 ・病院がなくて病気のとき困る。	(思)　人口減少により困ることについて、具体的に考えることができる。（発言・ワークシート）
4　VTRや写真を見て地元の様子について知る。	
5　匹見町長になったつもりで過疎の対策について考える。 ・県や国が援助する。 ・工場を誘致する。 ・イベントをする。	(思)　過疎対策について自分なりに考えることができる。（発言・ワークシート）
6　5で出た意見について、検討する。（実現可能かどうか、問題点はないか、どうすれば実現できるか、一番効果があるのは？）	(思)　出された過疎対策について、多面的、客観的に検討することができる。（発言・ワークシート）
7　匹見町では過疎対策としてどんなことに取り組んでいるかVTRで知る。	
8　「村おこし」について教師の話を聞く。 ・佐賀の町・村おこし ・村おこしには人づくりが重要。	
9　「大和町のまちづくりについて」の考えをノートに書く。	(思)(関)　授業の内容等を生かして大和町の町づくりについて書こうとする。（ノート）

なお、実際の評価にあたっては、四つの観点は互いに密接に関連しており、一つの観点を単独で評価することは少ないことを踏まえておかなければならない。ただ、毎時間生徒全員について評価することはできないので、「1単元の中で一人1コメントを四つの観点について」や「1時間に主に二つの観点の評価」をするなど、工夫して簡潔に補助簿などに記録する。

もちろん授業場面で、教師が生徒を励ましたり、ほめたりするための即時的な評価を指導の中に取り入れることは欠せない。

4　「関心・意欲・態度」の評価について

「関心・意欲・態度」の評価については、「知識・理解」「資料活用の技能・表現」「社会的思考・判断」などの認知面の評価に比べて、生徒の内面との関わりから評価をしにくい面があるのは事実である。しかし、教師の観察に、ノートの記述や作品の分析、自己評価や相互評価などを併用し継続的に記録を集めていくことで、より客観的・多面的な評価に近づけていくことができると思われる。

また、「関心・意欲・態度」の評価については「教師の主観が入るのでは？」という声もあるが、どのような指導、テストや評価方法でも教師の主観は入ってくる。もちろん、教師は客観的な評価となるように最大限の努力を払わなければならない。しかし生徒のよさや可能性を見つけ、個性を伸ばすために評価をしようとする限り、教師の評価における主観の問題については過度に心配する必要はないと考える。

5　自己評価、相互評価の活用について

評価としては教師による評価のほかに、自己評価、相互評価を取り入れていきたいものである。自己評価は生徒が学習を振り返って、次の学習への改善・調整するためのものであり、自己教育力の育成において重要な役割を果たしている。ただ、生徒に評価を任せても「自分を甘く評価」したりするので役に立たないという声が聞かれる。しかし、自己評価の結果をそのまま教師の評価に取り入れることではなく、生徒の自己評価力を育成するためや生徒の学習を支援するための情報を集める手段として活用することは大いに意義があろう。

また、自己評価に相互評価も合わせて取り入れることで、教師の一方的・一面的な評価をより多角的・多面的なものにすることができよう。さらには、他者の評価を本人へ伝えることで、自己評価と比較させ自己評価の妥当性を確認させたり、次の学習への意欲や自信を持たせることにもつながるのである。

6　「覚えているだけで解ける問題」から「覚えているだけでは解けない問題」へ

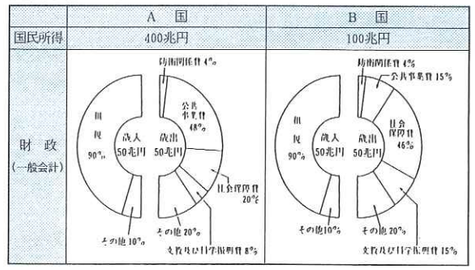
今後は知識偏重の社会科からの脱皮をはかるために、授業の改善とともに、テストの出題方法の改革が不可欠となってくると思われる。すなわち「覚えているだけでは解けない問題」を教師が作成し、実施することである。具体的には、固有名詞を一問一答式に答えさせる問題などでなく、グラフや年表等の資料を基に生徒の社会的思考・判断や資料活用の技能を測ろうとする問題である。例として平成7年度前期佐賀県公立高等学校入学者選抜学力検査問題（資料3）が参考になると思う。また、教科書や地図帳等を使って解くテストの実施も考えられる。

（資料3）　平成7年度前期佐賀県公立高等学校入学者選抜学力検査問題（一部）

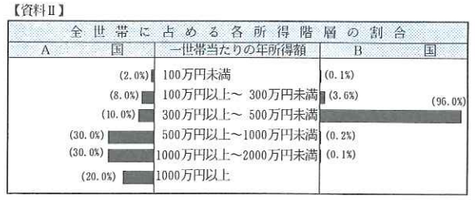
3　A国・B国があるものとし、両国の最近の傾向が【資料Ⅰ】・【資料Ⅱ】のように表されているとします。これらの資料をもとに「豊かさ」ということについて、多面的に考えてみました。次の1,2の各問いに答えなさい。

ただし、両国とも、自由な経済活動を基本的な原則としており、また、その他、人口・物価などの条件についても同じである。

【資料Ⅰ】

	A　国	B　国
国民所得	400兆円	100兆円
財政（一般会計）		

【資料Ⅱ】



1　【資料Ⅰ】・【資料Ⅱ】に関連して、次の(1)～(3)の各問いに答えよ。

(1)　は省略。

(2)【資料Ⅰ】からは、B国の方がA国よりも国民の租税負担が重いということが考えられるが、具体的には、どのようなことからそのように考えられるか。その理由を簡単に書け。

(3)【資料Ⅱ】からは、A国では年所得額の多い層の比率が高いことが読み取れるが、それ以外にA国のどのような特徴が読み取れるか。簡単に書け。

2　「豊かさ」のとらえ方はさまざまである。したがって、そのとらえ方によって、両国にはそれぞれの豊かさがあるということになる。

A国が豊かであることを述べた下の文を参考にし、【資料Ⅰ】・【資料Ⅱ】をもとにして、B国が豊かであるということを述べよ。なお、その際、B国が豊かであるという理由と、豊かさの内容を、明確に示して述べること。

A国は、国民所得も多く、年所得額の多い層の比率も高いので、経済的にゆとりのある豊かな国であると考える。

《評価シリーズ》（小学校理科）

新しい学力観に立つ理科の学習指導と評価

所員 本村正信

1　理科における学習指導と評価の考え方

小学校では指導要領の全面実施４年目を迎えている。理科学習においても「自らの問題を見いだす」「自分なりの解決方法を考える」「考えをもとにくり返し活動する」「結果をまとめ自分の考えを発表する」といった、児童中心の主体的な学習展開が定着してきている。新学力観に立つ学力はこのような児童の主体的な問題解決活動によって獲得される。では、このような活動において、どのように評価すればよいのか考えて見たいと思う。

児童が主体となる問題解決活動では、児童が自分の目標（問題）を設定し、その問題が解決できたかどうかという目標への実現状況を自分自身で確認することが必要になる。その実現状況を的確にとらえ、それに対応する支援を教師が行うことが大切である。児童が目標を実現していく過程は、

① 自然への関心・意欲・態度
② 科学的な思考
③ 観察・実験の技能・表現
④ 自然事象についての知識・理解

であり、学習場面ではこれに従って、児童の実現状況を評価することになる。

2　評価の進め方

・理科の目標、観点別学年目標
↓
・単元全体を見通した単元目標の設定（単元での評価規準）
↓
・具体的目標の設定
↓
・単元の指導計画と具体的目標、評価の位置付け
↓
・１単位時間の目標、評価項目、方法等の設定
↓
・評価結果を一人一人の学習過程にフィードバックし、授業の改善を図る

3　各評価観点の趣旨、要点、方法

観点	趣旨	3年	4年	5年	6年	方
自然事象への関心・意欲・態度	自然に親しみ、意欲をもって自然の事物・現象を調べる活動を行い自然を愛護するとともに生活に生かそうとする。	自然現象を興味・関心をもって追究し、生物を愛護するとともに、見いだした特性を生活に生かそうとする。	自然事象を興味・関心をもって追究し、生物を愛護するとともに、見いだした特性を生活に生かそうとする。	自然事象を意欲的に追究し、生命を尊重するとともに、見いだしたきまりを生活に当てはめてみようとする。	自然事象を意欲的に追究し、生命を尊重するとともに、見いだしたきまりを生活に当てはめてみようとする。	・自己評価、相互評価 ・行動観察 ・感想文 ・発言 ・作品 ・ノート記録 等
科学的な思考	自然事象から問題を見いだし事象を比較したり、関係付けたり、観察、実験などによって得られた結果を考察処理したりして、自然事象を論理的客観的にとらえ、問題を解決する。	自然事象を比較しながら問題を見いだし、差異点や共通点をとらえ、問題を解決する。	自然事象の変化とその要因とのかかわりに問題を見いだし、変化に見られる因果関係をとらえ、問題を解決する。	自然事象の変化とその要因との関係に問題を見いだし、変化に見られる共通性や量的関係をとらえ、問題を解決する。	自然事象の変化とその要因との関係に問題を見いだし、変化に見られる共通性や量的関係をとらえ、問題を解決する。	・行動観察 ・ノート記録 ・発言 等
観察、実験の技能・表現	自然事象を観察し、実験を計画、実施し、機械、器具など目的に応じて工夫して扱うとともに、それらの過程や結果を的確に表現する。	簡単な器具や材料を見つけたり、使ったり、作ったりして観察や実験を行い、その過程や結果をわかりやすく表現する。	簡単な器具や材料を見つけたり、使ったり、作ったりして観察や実験を行い、その過程や結果をわかりやすく表現する。	問題解決に適した方法を工夫し、装置を組み立てたり使ったりして観察や実験を行い、その過程や結果を的確に表現する。	問題解決に適した方法を工夫し、装置を組み立てたり使ったりして観察や実験を行い、その過程や結果を的確に表現する。	・ノート記録 ・パフォーマンステスト ・行動観察 等
自然事象に対する知識・理解	自然事象の特徴や相互の関係規則性などについて理解している。	生物の体のつくりや成長にはきまりがあることや、物に力・光・電気などをはたらかせると、物によって決まった性質が現れること、土地によって地面をつくっている物には違いがあり、太陽による温まり方も異なることなどを理解している。	生物の活動や成長のしかたは環境条件と関係があることや、物質の変化には外的条件が関係していること、水は土地を変化させたり、気象変化の原因となったりすることなどを理解している。	生命は子孫に受け継がれて連続していることや、物の状態は与える条件によって規則的に変化すること、気象条件や天体の動きにはきまりがあることなどを理解している。	生物は互いに類似した体のつくりとはたらきをもち、環境とかかわって生きていることや、物に外から条件を加えると物の性質が変わることがあること、天体の動きや土地の変化には規則性があることなどを理解している。	・行動観察 ・ノート記録 ・発言 ・ペーパーテスト ・パフォーマンステスト 等

4　４年「ものの体積と温度」の指導と評価の例

(1)　理科の目標（略）、観点別学年目標（３を参照）

(2)　単元の目標

金属、水、空気を自分の考えた方法で、温めたり冷やしたりして温まり方や体積の変化など、物の状態の変化とその要因とを関係づけながら調べるとともに、日常生活における物の性質や変化の傾向などについて進んで調べることができる。

(3)　単元の構成と評価（重点評価項目）の計画

主な学習活動	自然への関心・意欲・態度	科学的思考	観察・実験の技能・表現	自然事象について知識・理解
第1次（3時間） ビール瓶をにぎりしめてシャボン玉をふくらませたり、10円玉をカチカチいわせてみよう。 空気をとじこめて温めたり、冷やしたりして体積の変化を調べてみよう。	シャボン玉がふくらんだり、10円玉が動いたりすることに興味をもち、進んで活動している。 「行動観察」	温度の違いによる空気の体積の変化を比較しながら調べ、説明できる。 「行動観察、ノート記録、発言」		
第2次（2時間） 水・金属も温めたり、冷やしたりすると空気と同じように体積が変わるか調べてみよう。 素材・方法を変えて：水／金属	身の回りの物に熱が伝わることによって起こる現象に興味・関心をもち進んで調べている。 「行動観察、感想文」		水、金属を温めたり冷やしたりしたときの体積変化を工夫して調べ、その結果を記録することができる。 「行動観察、ノート記録」	
第3次（6時間） 空気、水、金属を熱したときの温まる（熱の伝わり）様子を調べよう。 素材・方法を変えて：空気／水／金属 熱気球を作ろう	協力して熱気球を作っている。 「行動観察、自己評価、相互評価」	水や空気の温まり方と金属の温まり方とを比べ、違いについて説明できる。 「行動観察、ノート記録、発言」	水・金属を温まり方を工夫して調べ、その結果を記録し友達に知らせることができる。 「行動観察、ノート記録、発言」	水、空気、金属を温めたときの体積変化や温まる様子について説明できる。 「ノート記録、ペーパーテスト」

5　第１次２／３・３／３の展開・評価例

①本時の目標

自分で考えた方法で、空気をとじこめて温めたり、冷やしたりして温度による体積の変化を調べ記録することができる。

②　本時の展開

	学習活動	支援	評価
つかむ	1　学習問題 空気は温度の違いによって本当に体積が変わっているのだろうか。温めたり、冷やしたりして調べてみよう。	○　前時の事象（ビールびんの口に10円玉をのせて手であたためた）を再度提示し、本時の問題へ導く。	※　温度の違い（氷水、湯）による空気の体積変化を比較しながら調べ、説明できる。 「行動観察、ノート記録、発言」
さぐる	2　実験 素材、方法を変えて：ビニール袋／マヨネーズ容器／ペットボトル／その他 氷水で冷やす／お湯であたためる	○　空気を閉じ込めることのできる素材を準備しておく。 ・ビニール袋・マヨネーズ容器・ペットボトル・ビーチボールなど ○　熱い湯を使うので、安全面について十分指導しておく。 ○　繰り返し確かめるように促し、結果、気づき等を記録をさせておく。	
まとめる	3　結果、きまりを書いて、まとめる。 空気は温めると体積が大きくなり、冷やすと小さくなる。それは、温度が高いほど大きく、低いほど小さくなる。	○　自分の実験の結果から、共通して言えること、違っていることなどがはっきりわかるようにしておく。（記録ノート）	

※の評価規準と指導

A　安全に留意しながら、湯と氷水とを比較しながら繰り返し確かめ、結果を客観的に表現し、説明できている。

B　安全に留意しながら、湯と氷水とを比較しながら確かめ、結果を記録している。

C　比較しながらの実験や繰り返しの確かめが不足し、結果を正しくとらえていない。

→　Cの児童については、「何を調べるために、どのような実験を行い、結果はどのようになるのか」などを再度確認し、・空気を閉じ込めること・氷水と湯との比較などを確かめ調べるように助言する。

《平成７年度》

佐賀県教育センターの機構と担当者

課・係・職名			氏名	分掌事務
所長			村山　勝	所総括
次長			副島利彦	所長補佐
総務課	課長		古賀紀昭	課総括
	庶務係	係長	古賀紀昭	（本務　総務課長）
		主査	飯盛宏子	庶務・給与等
		〃	園田秀芳	予算・財産等
		主事	平原敦子	会計・事務費
研修一課	課長		千手正秋	課総括　機能拡充
	教科係	係長	山田裕章	短期研修企画調整・係総括 国語（高）
		研究員	中村和彦	生活（小）機能拡充連絡調整
		〃	井手和憲	技術（中）機能拡充
		指導主事	福田史朗	英語（高）研究協力校 断続研修
		研修員	三枝　出	英語（中）短期研修
		〃	権藤順子	国語（小）機能拡充
		〃	峰　茂樹	国語（小）短期研修
		〃	塩谷北海	社会（中）短期研修
		〃	大石浩城	国語（中）機能拡充
		〃	石田正紹	音楽（小・中・高）機能拡充
		〃	一木徹也	算数（小）所内・所外研
	理科教育係	係長	古藤倫彦	長期研修・所員研修　係総括 理科（中）
		研究員	東嶋　徹	物理（高）長期研修
		〃	坂本兼吾	生物（高）長期研修
		〃	嘉村　敦	化学（高）長期研修　全理セ
		指導主事	本告正澄	地学（高）長期研修　機能拡充
		研修員	千住由一朗	理科（小）長期研修　全理セ
		〃	本村正信	理科（小）長期研修運営
研修二課	課長		副島利彦	（本務　次長）課総括
	教育経営係	係長	古賀淳一	研究調査　初任研　全教連 係総括　学校経営（中）
		研究員	直鳥信明	特別活動（小）初任研
		指導主事	西岡　強	学校経営（高）
		研修員	白水信義	特別活動（中）学級経営（中） 初任研
		〃	寺崎武利	教育評価　学級経営（小）全教連
		〃	宮原昌佳	初任研
		〃	馬場知之	初任研　研究発表会

課・係・職名			氏名	分掌事務
研修二課		〃	吉村清美	道徳　研究調査事業
		〃	安永伴吾	学級経営（小）へき地教育 実践研究論文
	指導相談係	係長	福山康登	教育相談・特殊教育・適応指導教室　係総括　生徒指導
		研究員	小山正己	教育相談（高）
		研修員	山口　俊	特殊教育
		〃	光武充雄	適応指導教室
		〃	平山峰幸	教育相談（小）生徒指導
		〃	光岡敏子	教育相談（小）
		〃	永田由美	教育相談（中）
		〃	黒木龍彦	適応指導教室
		〃	天野浩之	特殊教育
		〃	園田泰洋	〃
		嘱託	今泉正喜	適応指導教室
		〃	八田洋子	〃
		〃	寺町和子	〃
研修三課	課長		西森秀夫	課総括
	情報教育係	係長	橋本　孝	情報処理教育・FMS 係総括
		研究員	山﨑昭典	電算機システム管理研究商業（高）
		〃	岩瀬信太郎	生徒実習　農業（高）
		〃	山下利秀	FAシステム管理研究　工業（高）
	情報システム係	係長	大島正豊	教育情報システム・CAI 係総括
		指導主事	杉山　茂	教育機器管理研究　教育工学
		研修員	井上常茂	教育情報システム CAI（高） パソコン体験講習会
		〃	宮山　建	教育情報システム CAI（小） ソフトウェアライブラリー
		〃	納塚定生	教育情報システム CAI（中） ワークショップ
		〃	古賀敏文	教育情報システム CAI（高） 情報システム機器管理
		〃	原　秀勝	教育情報システム CAI（高） インターネット
	教育資料係	係長	池田　渉	教育資料・所報・九教連 係総括 公民・地歴(高)
		指導主事	矢ケ部清人	教育資料　数学（高）
		研修員	金丸千寿子	家庭（小・中・高）教科書センター　九教連
		〃	岡　哲也	数学（中）九教連　所長協
		〃	下村哲也	図画工作・美術（中・高）図書選定分類
		〃	平田陽介	社会（小）資料調査

平成７年度

第16回　佐賀県教育センター研究発表会

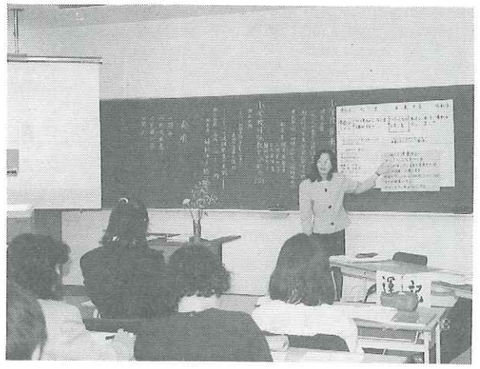
第16回佐賀県教育センター研究発表会が５月18日（木）県内の小・中学校、高等学校、特殊教育諸学校の教師や教育関係者、約220 名が参加して開催された。

午前中の全体発表会では、『「個に応じ、個を生かす」ティーム・ティーチングの在り方』という研究主題で、まず岡哲也所員がティーム・ティーチングの歴史的変遷や今日的意義、ティーム・ティーチングの必要性や指導上の留意点などについて発表した。さらに続いて習熟度の程度に応じた授業と学習課題に応じた授業の両面からティーム・ティーチングの小学校における実践を千住所員が、中学校における実践を塩谷所員がそれぞれ発表した。

午後からは、各教科・領域別に分かれて30の分科会が開かれた。今年度は、「個に応じた教育」「社会の変化に対応した教育」という２つのテーマのもとで、ティーム・ティーチングの指導法、パソコン等の教育機器を活用した指導法、そして観点別評価の研究などについての発表と活発な協議が行われた。

また、平成６年度教育実践・教育研究論文の入選者（10編、12名）による論文発表も分科会で行われた。

《全体発表の様子》



《分科会の様子》

《平成６年度教育実践・教育研究論文入選者》

上段左から

佐賀県立佐賀西高等学校	教　諭	堤　敏浩
佐賀市立城北中学校	教　諭	斎藤　孝夫
東脊振村立東脊振中学校	養護教諭	千々岩峰子
神埼町立神埼中学校	教　諭	諸隈　英之
〃	教　諭	夏秋　正倫
相知町立平山小学校	養護教諭	井上　和子
厳木町立厳木小学校	教　諭	峰　茂樹

下段左から

鹿島市立鹿島小学校	教　諭	橋口　裕子
〃	教　諭	峰松　洋子
佐賀市立本庄小学校	教　諭	瀬尾　裕子
伊万里市立黒川小学校	教　諭	原　俊吾
白石町立六角小学校	教　諭	田島千鶴子

平成7年度　短期研修新規講座の紹介

本年度の短期研修講座は学習指導要領改訂の基本方針である「心豊かな人間の育成」「基礎・基本の重視と個性を生かす教育の充実」「自己教育力の育成」「文化と伝統の尊重と国際理解の推進」の四つの大きな柱に基づいたテーマ別の講座を設定しました。

全講座数は126講座で、小学校、中学校、高等学校、特殊教育諸学校教職員を対象として実施しています。本年度は社会の変化や今日的教育課題に対応して新規講座を下記のとおり35講座設定しました。

心豊かな人間の育成

A豊かな感性を育む指導　B自主的・自律的に生きる力を育てる指導
C一人一人の児童生徒を大切にする教育相談・特殊教育

講座番号	講座主旨及び講座名	期日:○は宿泊日	対象者
1252 A	表現の喜びを味わわせる指導の在り方 小学校図画工作科（下学年）	8／7（月） 10（木）	小学校教員
1261 A	造形的な表現能力を高める指導の在り方 小学校図画工作科（上学年）	5／㉙（月） 30（火）	小学校教員
1711 A	多様な音楽のよさを味わわせる指導の工夫 高等学校芸術科（音楽）	6／㉘（水） 29（木）	高等学校音楽科担当教員
1853 A	「生き生きした表現」を目指す絵画指導の在り方 美術展鑑賞	1／12（金）	小学校教員・中学校美術科担当教員
4802 C	通級による指導の実際と軽度心身障害児の援助の在り方 通級による指導	7／28（金）	小・中・特殊教育諸学校教員
4861 C	よりよい人間関係づくりのための児童生徒の心理、行動の理解 教育相談（初級）	6／22（木） 7／④（火） 5（水）	小・中・高・特殊教育諸学校教員
4903 C	フォーカシングの理論と実際 教育相談体験学習（フォーカシング）	11／㉘（火） 29（水）	小・中・高・特殊教育諸学校教員
4931 C	児童生徒の持つ諸問題の指導方法を考える 登校拒否の指導と援助1班	5／25（木） 6／7（水）	小・中・高・特殊教育諸学校教員
4942 C	児童生徒のもつ諸問題の指導方法を考える 登校拒否の指導と援助2班	9／13（水） 29（金）	小・中・高・特殊教育諸学校教員
4953 C	登校拒否児童生徒への指導と援助を考える 登校拒否の指導と援助3班	1／26（金） 2／6（火）	小・中・高・特殊教育諸学校教員

基礎・基本の重視と個性を生かす教育の充実

D個に応じた指導方法の工夫改善
Eティーム・ティーチングを取り入れた学習の指導　F指導体制の工夫改善

講座番号	講座主旨及び講座名	期日:○は宿泊日	対象者
1132 D	一人一人の個性を生かす文字言語表現指導 小学校国語科表現（文字言語）	7／㉔（月） 25（火） 8／2（水）	小学校教員
1192 D	基礎的・基本的な内容を重視した算数科学習の進め方 小学校算数科（基礎）	8／㉒（火） 23（水） 9／29（金）	小学校教員
1611 D	個に応じた古文学習指導方法の開発 高等学校国語科（古文の教材研究）	6／⑭（水） 15（木）	高等学校国語科担当教員
1622 D	個に応じた漢文学習指導方法の開発 高等学校国語科（漢文の指導法）	9／20（水） 26（火）	高等学校国語科担当教員
2173 D	自然や科学の魅力を味わうサイエンス教室 小学校理科（おもしろサイエンス教室）	10／⑫（木） 13（金）	小学校教員
1221 E	ティーム・ティーチングの理論と実践 小学校算数科（TT）	6／13（火） 20（火）	小学校教員
1441 E	個を生かす新しい学習指導 中学校社会科（ディベートとTT）	6／①（木） 2（金）	中学校社会科担当教員
1482 E	コミュニケーション能力を高めるための理論と実際 中学校英語科（コミュニケーション）	8／①（火） ②（水） ③（木） 4（金）	中学校英語科担当教員

自己教育力の育成

G自ら学ぶ意欲を育てる指導と評価　H体験的・問題解決的な学習の指導
I現代社会に対応する情報教育

講座番号	講座主旨及び講座名	期日:○は宿泊日	対象者
1213 G	「算数のよさ」を感得させる指導と評価 小学校算数科（応用）	10／3（火） 27（金）	小学校教員
1533 G	指導と評価の一体化を目指した学習指導の工夫 中学校技術・家庭科（技術系列指導と評価）	10／3（火）	中学校技術・家庭科担当教員
1632 G	近現代史を見据えた新しい日本史学習の在り方を探る 高等学校地理歴史科（日本史）	8／①（火） 2（水）	高等学校地理歴史科・公民科担当教員
1653 G	国際化の進展など社会の変化に対応した学習指導の在り方を探る 高等学校公民科（政治・経済）	10／4（水） 13（金）	高等学校公民科・地理歴史科担当教員
1821 G	主体的な学習態度を育てる学校図書館の利用指導 小学校図書館教育	6／⑧（木） 9（金）	小学校教員 司書
1842 G	新聞を活用して自ら学ぶ力を育てる NIE（新聞活用教育）	8／10（木）	小・中・高等学校教員
1862 G	生涯学習の視点に立った家庭科学習 家庭科（生活環境）	8／22（火）	小学校教員・中・高等学校家庭科担当教員
3873 G	一人一人を生かす指導と評価の考え方 指導と評価（基礎）	10／3（火） 13（金）	小・中・高等学校教員
3883 G	観点別評価の具体化と個に応じた指導 指導と評価（実践）	10／3（火） ㉛（火） 11／1（水）	小学校教員 中学校教員
1102 H	討論の楽しさを味わい、生かすディベート指導方法 小学校国語科ディベート体験	8／9（水）	小学校教員
1832 H	討論の楽しさを味わい、生かすディベート指導方法 中学校・高等学校国語科ディベート	8／9（水）	中・高等学校国語科担当教員
2462 I	理科実験の幅を広げる計測機器の導入 中学校理科（パソコン活用）	8／7（月）	中学校理科担当教員
5762 I	製図について基礎的な知識と技術を習得し、製作図、設計図など正しく読み取る CADの活用	8／⑦（月） ⑧（火） 9（水）	高等学校農・工・商・家担当教員
6812 I	授業研究を効果的に行うための教育工学 教育メディアを生かした授業実践	7／㉖（水） ㉗（木） 28（金）	小・中・高・特殊教育諸学校教員
6962 I	教育情報システム活用のための専門的な知識・技能の習得 教育情報システム活用3班	9／⑤（火） 6（水）	小・中・高・特殊教育諸学校教員

文化と伝統の尊重と国際理解の推進

J地域の特性を生かした指導　K国際理解を深める指導

講座番号	講座主旨及び講座名	期日:○は宿泊日	対象者
1432 J	地域の特性を生かした教材研究と授業の工夫 中学校社会科（教材研究と授業）	9／㉗（水） 28（木） 10／11（水）	中学校社会科担当教員
1693 K	国際理解に生かす英語教育と授業の進め方 高等学校英語科（国際理解）	10／4（水） 25（水）	高等学校英語科担当教員

「個を生かす教育」「社会の変化に対応する教育」を中心とした研究調査

～平成7年度　研究テーマと研究委員の紹介～

No.	研究部会	研究テーマ	研究委員会名	担当所員	研究委員
Ⅰ	ティーム・ティーチング	個を生かすティーム・ティーチングによる指導と評価	1　小学校生活	中村　和彦	橋本　幸雄(多良小)　末次　幸子(有田小)
			2　小学校音楽	石田　正紹	緒方真智子(若楠小)　岡　真由美(鍋島小)
			3　中学校理科	古藤　倫彦	豊田　博司(田代中)　田中　武博(鹿島西部中)
			4　中学校英語	三枝　出	高木　和之(伊万里中)　諸隈　直子(思斉中)
Ⅱ	選択履修	一人一人の生徒の特性に応じ、個性を伸ばす指導の研究	1　中学校国語	大石　浩城	志津田美佳(諸富中)　中島　央子(塩田中)
			2　中学校社会	塩谷　北海	戸田　一彦(東脊振中)　野田　英樹(西有田中)
			3　中学校技術・家庭	井手　和憲	田嶋　健一(国見中)　下川登志雄(第五中)
Ⅲ	指導と評価	新しい学力観に基づく指導と評価	1　小学校算数	一木　徹也	稲富　博茂(福富小)　古賀　康弘(中原小)
			2　中学校教育評価	寺崎　武利	西村　孝子(基山中)　田島　隆一(江北中)
			3　中学校進路指導	白水　信義	杉町　徹(鍋島中)　中島　裕二(諸富中)
			4　高等学校数学	矢ヶ部清人	岩橋　誠(伊万里高)　岩崎　良子(伊万里農林高)
Ⅳ	教材開発	個を生かす教材の工夫と開発	1　高等学校国語	山田　裕章	岩崎　俊郎(伊万里高)　時津　正純(致遠館高)
			2　高等学校物理	東嶋　徹	吉岡　義博(牛津高)　坂本　武敏(鹿島高)
			3　高等学校化学	嘉村　敦	山口　明徳(唐津北高)　時貞　充尚(武雄高)
			4　高等学校生物	坂本　兼吾	鶴田　靖雄(東松浦高)　中島　誠吾(致遠館高)
			5　高等学校地学	本告　正澄	内山　隆文(佐賀西高)　林　嘉英(鳥栖高)
Ⅴ	教育相談	一人一人の児童生徒を生かす教育相談の研究	1　教育相談	小山　正己 他4名	梅山ひさの(久里小)　川崎　健二(有明中) 原口　元茂(大和養護)
			2　学校適応指導	光武　充雄 他1名	森山　洋一(城東中)
Ⅵ	特殊教育	一人一人の障害児を生かす教育内容・方法の研究	1　特殊教育	山口　俊 他2名	峰松　洋子(嬉野小)　山田　政昭(勧興小) 緒方　幸代(鳥栖小)
Ⅶ	興味・関心に関する調査研究	児童生徒の興味関心と問題解決への意欲に関する研究	1　関心・意欲	直鳥　信明 他7名	
Ⅷ	国際化に対応する教育	国際的視野に立ち、自分の考えを豊かに表現し行動できる児童生徒の育成	1　小学校国語	権藤　順子 他1名	末次由貴子(本庄小)　田中　達(千代田西部小)
			2　中学校数学	岡　哲也	井手　俊朗(啓成中)　巨瀬　徳彦(鹿島西部中)
			3　中学校美術	下村　哲也	深川　悌二(城西中)　田中　隆昭(多良中)
			4　高等学校地歴・公民	池田　渉	田中　弘幸(鹿島高)　記伊　善弘(太良高)
			5　高等学校英語	福田　史朗	平原　正弘(致遠館高)　堺　三起夫(小城高)
Ⅸ	環境に関する教育	自ら環境にかかわっていく児童を育てる学習指導方法の研究	1　小学校社会	平田　陽介	池上　英利(三日月小)　小川　徳晃(春日小)
			2　小学校理科	本村　正信 他1名	岡崎　和久(勧興小)　江頭　一寛(三日月小)
Ⅹ	情報化に対応する教育	教育情報システムの利用推進に関する研究	1　ﾈｯﾄﾜｰｸ利用1	古賀　敏文 他1名	堀江　秋夫(佐賀工高)　金川　美華(武雄中)
			2　ﾈｯﾄﾜｰｸ利用2	原　秀勝 他1名	籾井　宏文(杵島商高)　草場　聡宏(城西中)
			3　グループウェア	井上　常茂 他1名	平川　年明(白石中)　大川内弘紀(杵島商高)
			4　情報ｼｽﾃﾑ利用	杉山　茂 他1名	牛丸　和人(多久東部中)　江頭亜由子(唐津西高)
Ⅺ	産業教育	産業社会と教育の関わりについての研究	1　高等学校工業	橋本　孝	成富　正登(佐賀工高)　島本　克己(塩田工高)
			2　高等学校商業	山崎　昭典	斧本　裕二(唐津商高)　池田　久雄(杵島商高)

いじめの指導の在り方について

指導相談係長　福　山　康　登

いじめに関係した事件は、昭和50年代末から昭和60年代にかけて集中的に発生したが、その後、いじめの発生件数は減少し、ここ数年は、ほぼ横ばい、ないしはわずかながら減少傾向もうかがえるという状況にあった。

そのような中で、昨年11月、愛知県西尾市の中学２年生のいじめを苦にした自殺という大変ショッキングな事件が起きた。

このような痛ましい事件が繰り返されないことを願って、いじめを予防するための指導について述べ、次いで不幸にしていじめが起きた場合の指導の在り方について示すことにする。

【いじめの予防】

いじめを予防するには、普段の指導が最も大切である。また、何も起っていない時も指導を持続しておく。

1．児童生徒が安心して学校生活を送れるよう配慮する。

(1) 児童生徒たち相互の人間関係を深める。

あらゆる機会をとらえクラスの一体感を育て相互に協力しあい認めあうことのできる支持的風土を学級内にみなぎらせる。

(2) 児童生徒の心を理解する。

人の心を正しく理解することは、その人を支えることになる。日頃から、子供の話をよく聴いて訴えや考えを共感的に理解する。

(3) 孤立しがちな児童生徒の心の居場所をつくる。

教室や学校で存在感の薄い児童生徒がいる。そんな一人一人が活躍できる場をつくる。

(4) 基準を示す。

普段から、いじめはいかに人を傷つけ、苦しめるものであるかを訴え、「どんな理由があろうと、絶対に許されない行為である」との厳しい態度で、良心に呼びかけておく。

2．意欲や元気の源になる心のエネルギーをたくさん与える。

(1) 生活に目標を持たせ、「できた喜び」「分かった楽しさ」を体験させる。

人は、「できた」「分かった」とき、「もっとやりたい」「分かりたい」という心のエネルギーが湧いてくる。

目標を持って毎日の生活を送ることができるなら、うっ積し屈折した攻撃感情がいじめという形を取ることはない。

(2) 見守り、認め、励ます。

自分なりに頑張ったことを先生がほめてくれた。自分の良さが認められた。こんなとき、やる気が湧いてくるものである。

児童生徒と共に過ごす時間を確保し、長所を伸ばしてやる。

3．児童生徒が身の回りに起きるさまざまな問題を解決しながら他者と調和的に生きて行くための社会的能力を育てる。

(1) 状況を正しく判断する力を育てる。また、多面的、共感的理解力を育てる。

(2) 聞く力・話す力を育てる。

相手の言うことを最後まで聞く習慣や、自分の主張をていねいに表現する習慣を身につけさせる。まず、教師が手本を示す。

(3) 相手の立場や気持ちを思いやる力を育てる。

思いやりの気持ちのない子供に対しては、教師自身がモデルとなって思いやりの心を示したいものである。「相手の喜びや悲しみを分かちあう」「相手に援助の手をさしのべる」「相手の援助に感謝する」など、機会あるごとに経験させ思いやりの心を育てる。

(4) 問題を解決する力を育てる。

問題解決方法のレパートリーが増えるように児童生徒を見守り支援する。

(5) 責任感を育てる。

子供であっても、自分の言動には、責任を持たなければならないことを教える。

4．保護者との協力関係を築く。

極端にわがままに育てられたり、厳格すぎるしつけを受けたりした子供は、欲求不満のはけ口としての怒りや憎しみを蓄積していたり、自己統制力が弱かったりする。それらが家庭以外の場面で、何かの調子に他の児童生徒に向けられて、いじめとなるケースがある。

いじめを予防するには、普段から家庭での生活の様子を知る努力をはらい、しつけについての保護者の悩みをよく聴き、適切な援助ができるように心掛ける必要がある。

【第1段階】

いじめの早期発見につとめる。

1．子供のサインを敏感にキャッチする。

いじめは、外からは見えにくい形で行われることが多く、その兆候を見逃してしまう危険性が高い。また、いじめられている子供は、いじめを認めることを恥ずかしいと考えたり、仕返しを恐れたりして、いじめの存在について尋ねても、自ら否定する場合が多く、いじめを見抜くことは大変難しい。

従って、日頃から教師は、わずかなサインでも受け止めることができるよう感受性を磨いておくとともに、断片的な情報やほんの小さな変化から的確な判断ができるよう洞察力を養っておく。

2．児童生徒との人間関係を深める。

子供たちがいじめを届けないのは、「訴えても、親や先生は何もしてくれない」という大人不信が存在していることも理由の一つに上げられる。

困ったときには、気軽に何でも相談してもらえるように、信頼される人間関係を日頃から培っておく必要がある。

【第2段階】

迅速に介入し、被害を受けている子供を救う。

1．被害者や届け出た者を徹底して守る。

いじめ問題への対応は迅速でなければならない。他の何よりもいじめから子供を守ることを最優先させる。

2．事実関係を正確に把握する。

関係者は興奮状態にある場合があり、雰囲気に飲まれて冷静さを失うことのないようにしなければならない。

また、短時間に間違いのない事実関係を把握するために、複数の教師で対応するなど、いじめを解消するためにはティーム・ティーチングの形態をとり指導にあたることも考える。

【第3段階】

的確な指導を展開する。

いじめの問題には、いろいろな問題が複雑に絡み合って存在している場合が多く、一般的・抽象的な指導で終わってはならない。

また、関係者を指導する際は、いじめは力関係のアンバランスの上に成り立っていることを念頭において指導を行い、ケンカ両成敗の指導で済ませない。

1．いじめられっ子に対する指導・援助

(1) 訴えをしっかり聴いて、つらさ・悲しさ・悔しさに共感し、心の支えとなる。

(2) 本人の興味・関心や長所を発見し、励まし自信を与える。

(3) 本人の抱えている問題点については、非を責めるのではなく、自ら気づかせる。

(4) 本人の成長を促す。

2．いじめっ子に対する指導・援助

いじめっ子に対する指導では、いじめの行為を否定しながらも、いじめっ子の受容を欠いてはならない。

(1) 注意・叱責を第一とすることを避け、まず、非難せず話を聴くことから始める。

(2) 不満や不信感など、いじめに走らせている要因をつきとめる。

(3) 持っている不満を望ましい形で発散させる手だてや方法を検討し、機会を作ってやる。

(4) 社会的に承認される行動や体験をとおして情緒の安定を図りながら改善の方向を探る。

3．周囲への指導

社会で許されない行為は、子供にも許されないことを理解させる。

いじめをめぐっては、自分とはかかわりのないこととして傍観する者やはやしたてたりする者が存在するが、こういった行為も許されないとの認識を持たせる。

また、自らの命を断つというような痛ましい事件が繰り返されることのないよう、児童生徒の発達段階に応じて、かけがえのない生命に対する畏敬の念を培い、生命を尊重する態度や生きる力を育む。

【保護者との連携】

保護者からの訴えに真剣に耳を傾け、信頼関係を確立し、いじめの解決を目指して協働する。

保護者からの訴えがあった場合、その心情を汲み取りながら、まず、親身になって誠実に話を聴くことに徹することが大切である。

保護者の思いのたけを十分語ってもらった後、いじめの解決に向かって迅速に的確な手を打つことや慎重に扱う必要があることを理解してもらい、いじめの解決に向かってとるべき対応を共に考え、子供の人格変容を目指し、粘り強く誠意を尽くして援助し続ける。

そうすることにより、いじめ問題と並行して生じる保護者の不安、対立、学校や教師不信などに対応し、信頼関係を取り戻す。

平成7年度 教育実践・教育研究論文募集

佐賀県教育委員会と佐賀県教育センターでは、今年度も教育実践・教育研究論文の募集を行います。

応募資格は県内の公立幼稚園、小学校、中学校、県立学校に在職する教職員並びにそのグループ（学校単位及び教職員グループを含む）となっています。また、応募論文のテーマ、部門、領域については次のとおりです。

①論文テーマ……自由

②部　門

・教育実践部門…下記の領域における実際的指導を中心とするもの

・教育研究部門…実際的指導にはあたらないが、下記の領域の基礎的研究を内容とするもの

③領　域

・各教科　・道徳　・特別活動
・特殊教育　・情報教育　・学級経営
・学年経営　・学校経営　・生徒指導
・進路指導　・教育相談　・教育評価
・へき地教育　・教育工学　・産業教育
・同和教育　・環境教育　・国際理解教育
・性教育　・保健安全　・教具開発
・パソコンソフト開発　等

応募期間は平成7年10月19日（木）～10月27日（金）。公立幼稚園、小学校、中学校は関係市町村教育委員会を通して、当該教育事務所へ提出し、県立学校は直接、佐賀県教育センターへ提出することとなっています。

応募する際には、A4判縦、横書き、48字×42行の10枚以内（部門名と領域名、学校名、職名、氏名、図表、写真、資料を含む）にまとめ、40部提出してください。規定枚数を超えた論文は原則として審査対象外となりますので、留意ください。

論文の形式は仮説検証の形式を原則とします。ただし、教育相談関係の論文は仮説がない場合も考えられますので、その限りではありません。

他の団体等が主催する懸賞応募等に応募した論文は、応募することはできません。原則として未発表のものに限ります。なお、応募原稿（写真・図表を含む）及び印刷した応募論文は返却できません。

入選論文については、表彰し、発表の機会を提供します。その他、詳しいことについては佐賀県教育センター「教育実践・教育研究論文募集」係まで問い合わせてください。

新　刊　紹　介

最近、当センターで購入しました新刊を紹介いたします。国際理解やティーム・ティーチング、観点別評価といった今日的な課題の内容のものを取り揃えました。先生方の研鑽の一助となれば幸いです。

番号	書名	著者（編集）名	発行所
1	国際理解教育Q&A	多田孝志、本多成人	教育出版センター
2	小学校　国際理解教育の進め方　新しい学力観をふまえて	三浦健治	教育出版
3	中学校　国際理解教育の進め方　新しい学力観をふまえて	井上裕吉、堀内一男	教育出版
4	身近な素材を生かした　小学校理科教材の研究	全国理科教育センター研究協議会	東洋館出版社
5	小学校のティーム・ティーチング	釼持勉、壷内明	明治図書
6	学習の多様化とティーム・ティーチング	愛知県東浦町卯ノ里小学校	黎明書房
7	中学校におけるティーム・ティーチングの考え方進め方	加藤幸次、福岡県小竹町立小竹中学校	黎明書房
8	児童を生かすティーム・ティーチング	釼持勉	明治図書
9	教師のためのティーム・ティーチング実践事例集	教職員配置改善研究会	ぎょうせい
10	シナリオ形式ティーム・ティーチングアイデア集	上田明子、Mary Althaus	中教出版
11	ティーム・ティーチングの実際	長江宏	三省堂
12	小学校におけるﾃｨｰﾑ・ﾃｨｰﾁﾝｸﾞの考え方・進め方　個性化教育を進めるために	高浦勝義、神奈川県大磯個性化教育研究会	黎明書房
13	ティーム・ティーチングの考え方・進め方	加藤幸次、河合剛英	黎明書房
14	小学校国語観点別評価の基準　データの集め方　判定の仕方	石田恒好、小森茂、清水健	図書文化
15	小学校算数観点別評価の基準　データの集め方　判定の仕方	石田恒好、吉川成夫、手島勝朗	図書文化
16	小学校理科観点別評価の基準　データの集め方　判定の仕方	石田恒好、角屋重樹	図書文化
17	中学校国語観点別評価の基準　データの集め方　判定の仕方	石田恒好、市原菊雄	図書文化
18	中学校数学観点別評価の基準　データの集め方　判定の仕方	石田恒好、根本博	図書文化
19	中学校理科観点別評価の基準　データの集め方　判定の仕方	石田恒好、三極隆	図書文化

《お願い》

学校で作成された、「研究紀要」「研究のまとめ」を佐賀県教育センターへお送り下さい。

当センター図書資料室に保管して、活用させて頂きます。

発行　佐賀県教育センター
〒840-02 佐賀郡大和町大字川上字西山
TEL 0952-62-5211　FAX 0952-62-6404

<3-67>